

第6回 災害時の連携を考える全国フォーラム 災害支援の文化を創造する

分科会セッション3-B:

# 「災害時の子どもの居場所の作り方」

～遊びと学びを通じた子どものこころのケアのために～

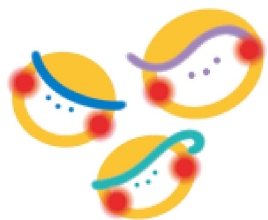
## お願い

- \* 開始前にみなさまの表示名を ご所属：お名前 に変更をお願いします。
- \* 質問は随時チャットボックスにご記入ください。質疑応答の時間に対応します。

2022年5月13日（金） 13:00-14:10

企画：  CFS協議会





## 災害時の子どもの居場所(CFS) 協議会

2020年9月から活動を開始、下記4団体がコアメンバー

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

特定非営利活動法人災害時こどものところと居場所サポート

# CFS協議会の目的と活動

## ①目的

- 1) 国内災害におけるCFSの活動事例についての情報交換及び意見交換によるCFSの質の向上、CFS実施のための普及や啓発を行う。
- 2) 情報共有や他団体との連携、意見交換などを行うことで、CFSや災害時の子ども支援事業をより効果的に行えるようにする。

## ②活動

CFS開設準備と実践時に役立つチェック項目を挙げたチェックリストの作成、CFS実施団体の過去の経験に基づいた学び集の作成、シンポジウムや勉強会などによるCFSおよび災害時の子ども支援に関する啓発・普及活動、など



## 本日の予定

---

- はじめに（概要説明）
- CFS設置・運営研修～準備編～紹介
- CFS設置・運営研修～実施編～紹介
- 質疑応答・意見交換

# 「子どもにやさしい空間（Child Friendly Spaces:CFS）」 設置・運営研修～準備編～



# 「子どもにやさしい空間（Child Friendly Spaces:CFS）」 設置・運営研修～準備編～

※視聴の際は、

★『緊急時子どもの居場所運営チェックリスト準備編』

こちらからダウンロードいただけます→ <https://bit.ly/389bY7o>



★『実践に基づくCFSの学び集』

こちらからダウンロードいただけます→ <https://bit.ly/38caHMw>



★『子どもにやさしい空間ガイドブック（第3版）』

こちらからダウンロードいただけます→ <https://bit.ly/3rg6nlr>



を参考にするようにしましょう

# 1. CFS設置時のポイント

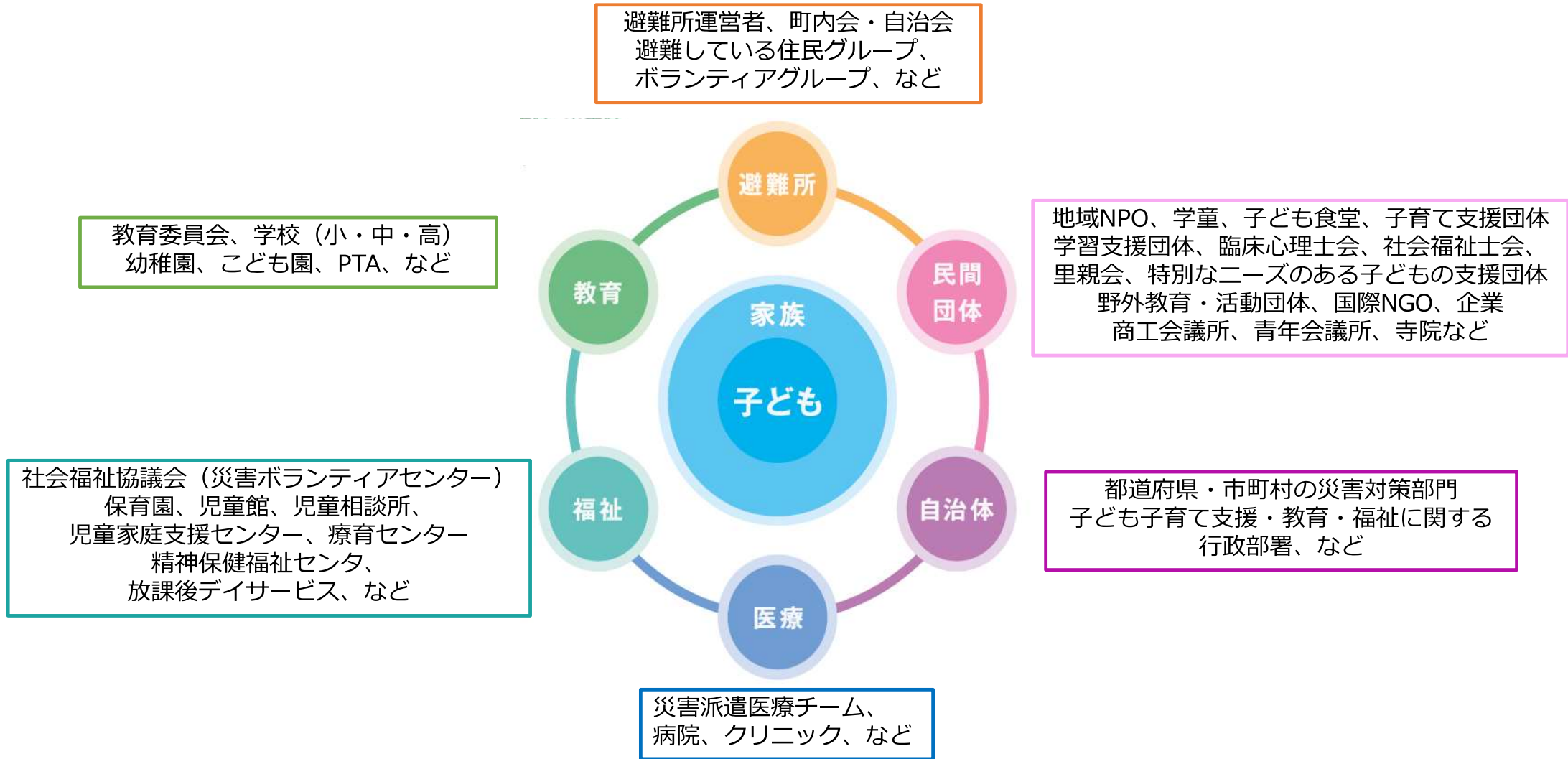
## CFS設置時のポイント

- 早い時期に提案
- 行政機関・他団体との連携重視
- 子ども支援調整会議への参加





## 地域行政や他団体との連携

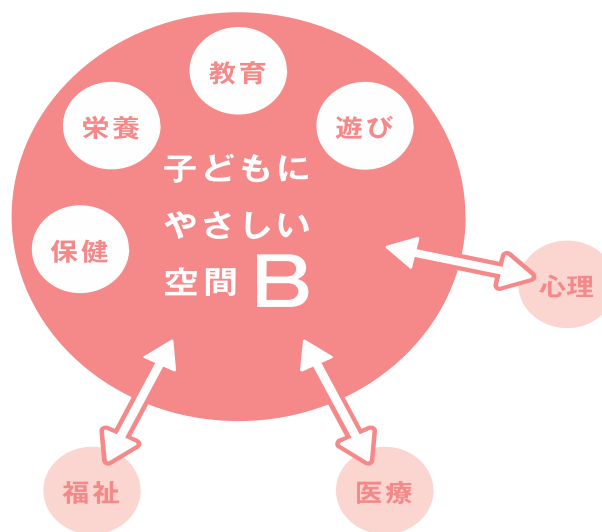


# CFSの様々なありかた

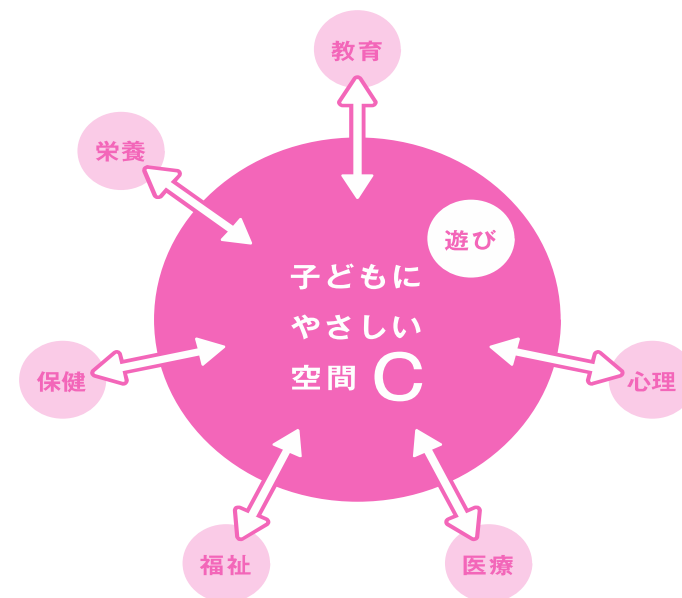
遊び・教育・心理・衛生・保健・福祉・医療などの主要な分野を含んだ、多様な活動や支援



多くの分野の支援を内部で実施するありかた



複数分野の支援をし、外部団体との連携で支援を補足するありかた



遊びの支援をし、外部団体との連携で支援を補足するありかた

## **2. CFSチェックリスト：準備編 ＜地域行政、他団体などとの連携＞**

# CFSチェックリスト：準備編 <地域行政、他団体などとの連携>

区分	内容	チェック	備考/代替案等
地域行政、 他団体などとの 連携	事業に際し、地域行政や支援団体と情報共有ができているか	はい    いいえ	
	出口戦略や引継ぎを見据えた話し合いができているか	はい    いいえ	
	人的・物品リソースなどの協力体制があるか	はい    いいえ	
◆地域行政、 他団体など の連携 ★ P15~19, 36	▶地域で活動している公的機関や民間支援団体についてまとめる一覧表の例：★付録 II (P49) 地域行政、他団体などとの連携：その他特記事項		

- 準備段階から出口戦略や引継ぎを見据えた話し合い
- 平時から地域の公的機関や民間支援団体のネットワーク作り

## 付録 II 地域で活動している公的機関や民間支援団体

機関/団体名	事業分野・内容	対象地域とその人口	支援を受ける子ども/おとなの数	事業の進捗状況・持続可能性

49

## 情報収集の留意点

- 支援団体間で調整し、チームで実施
- 避難所を運営する自治体職員などの同行
- スタッフのジェンダーバランス
- さまざまな子ども支援ノウハウを持つ団体とのネットワーク作り

参照：CFS協議会『実践に基づくCFSの学び集』



### **3. CFSチェックリスト：準備編**

#### **<場所, 設備>**

# CFSチェックリスト：準備編 <場所, 設備>

場所,  
設備

◆場所,設備  
★P29~34

実施場所の利用時間や利用ルールについて確認し運営上問題がないか	はい	いいえ
安全で危険のない環境、また清潔で整頓された環境であるか	はい	いいえ
軽いけがなどの応急処置をする場所がある、またはそのような場所が近くにあるか	はい	いいえ
屋内外に子どもの活動のための空間が十分にあるか（利用想定人数に適した広さが確保されているか）	はい	いいえ
避難経路の確保や緊急時の対応プランはあるか	はい	いいえ
実施場所はできるだけ区切られたスペースで、決まった出入口があるか	はい	いいえ
スタッフ、保護者、その他の訪問者のためのスペースは、子どもが使うスペースや受付場所と別にあるか	はい	いいえ
トイレと洗面所が近くにあるか	はい	いいえ
汚物の処理を適切にする設備があるか	はい	いいえ
障がいのある子どもの受け入れを想定した設備であるか	はい	いいえ
飲料水や手洗い場が近くにあるか	はい	いいえ
屋内外の遊び場では、乳幼児のための場所は別になっているか	はい	いいえ
屋内の遊び場には、季節に合わせた冷暖房設備があるか	はい	いいえ
屋外には屋根などのついた日陰の空間があるか	はい	いいえ

場所,設備：その他特記事項

- すべて満たさないと開設できないわけではない
- 開設後の改善も大事
- できる限り調整して安全に活動できる場所を確保

## CFSの場所・設備

例：学校の教室





# CFSの場所・設備

例：避難所（体育館）  
の一角



## CFSの場所・設備

例：避難所併設の  
運動場



## CFSの場所・設備

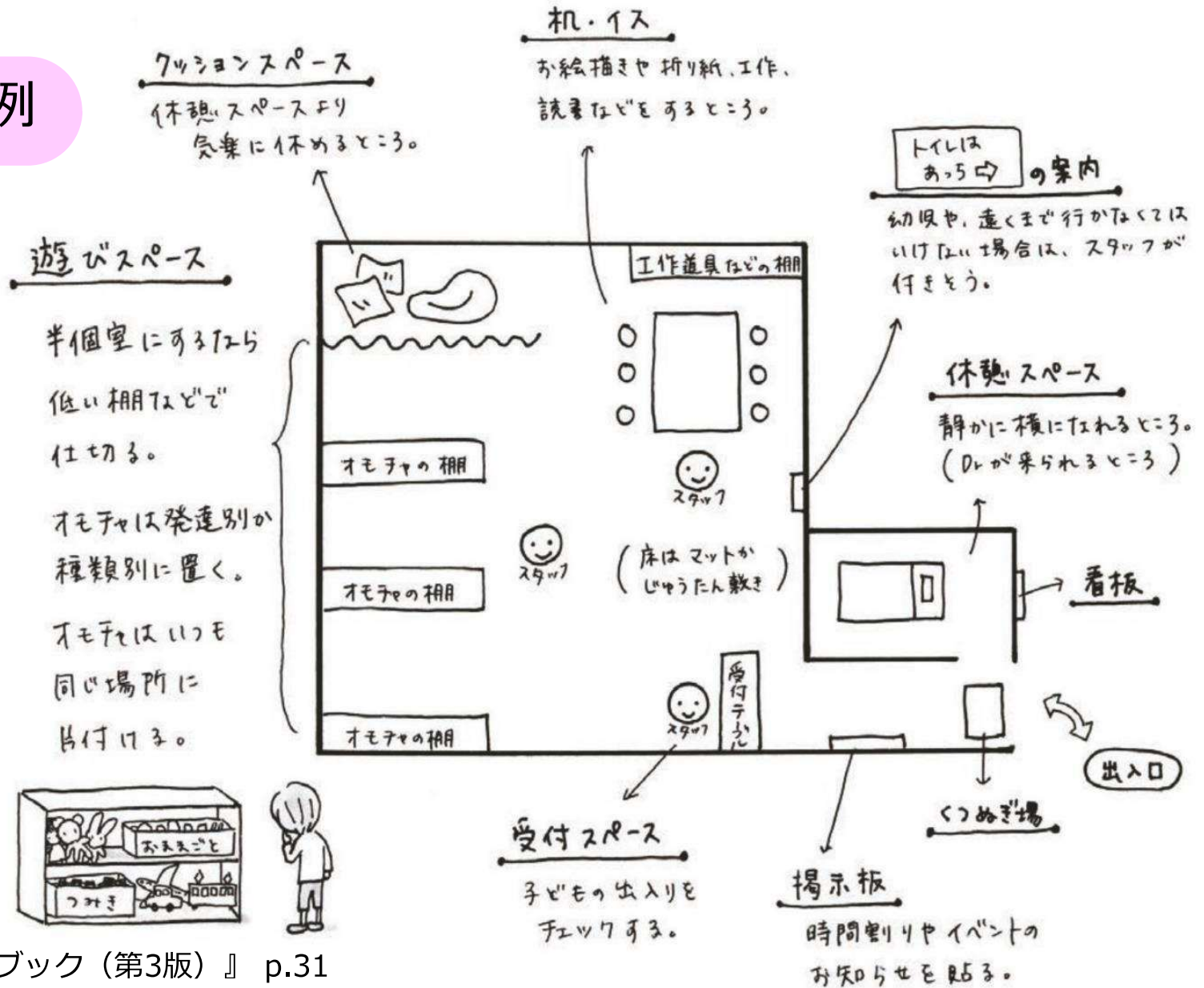
例：プレハブ



例：移動式



# 空間デザインの例



## 4. CFSチェックリスト：準備編 <備品>

## CFSチェックリスト：準備編 <備品>

### 備品

#### ◆ 備品

★ P26~28,

35

安全な環境づくりのための備品：救急箱（体温計や消費期限の過ぎたものがないか等中身は要検討）、懐中電灯（必要に応じて）	はい	いいえ	
衛生用品：ごみ箱（ごみ袋）、トイレトーパー（ティッシュ）、手指用消毒液、ウェットティッシュ、雑巾用タオル、ビニール手袋、マスク（必要に応じて）	はい	いいえ	
おもちゃや文具（年齢・屋内外・静動の遊びに合わせたもの）	はい	いいえ	
その他備品：ホワイトボード、マット、バインダー、名札（養生テープ）、ペンなど	はい	いいえ	
ケガ防止を考慮し、備品には先のとがった角や端がないか	はい	いいえ	
備品：その他特記事項			

\*6歳以下の子どもに役立つおもちゃや備品例（20名分）

必要なもの	説明	数
ホワイトボード	大きなサイズ、専用ペンと消すもの	1
敷物（マット）	ポリエステルなど汚れが取れやすいもの 柔らかい、明るい色のもの	4
さまざまなおもちゃ	柔らかい素材や、プラスチックで音が出るもの（がらがらや鈴入りの人形）など	15
積み木	幼児が使えるよう大きなもの	5セット
クッションボール	柔らかく小さな多色のもの （幼児用）お手玉でもよい	10
パペット人形やぬいぐるみ	手にはめて動かせる人形他、種類の違うもの	10
スカーフなどの布	さまざまな用途に子どもが使います	5
絵本		10

- おもちゃや文具は、年齢・屋内外・静と動の遊びに合わせたものを用意
- 子どもが自分で選べるようにする



←積み木

クッションボール→

\*6歳以上の子どもに役立つゲーム・おもちゃ例（80名分）

必要なもの	説明	数
ボール	バスケット、サッカー、ドッジボール、ソフトボールなど	4
空気入れ	ボール用	1
はちまき ゼッケン	子どものサイズのもの、色が複数	11枚 2セット
笛	ゲームの審判用	2
なわ跳び	ひも／ロープでもよい	10
トランプ・UNO		10
囲碁・将棋		10
パズル	難易度の異なるもの	10
音響機器	CDプレーヤーなど	1
チョーク	白と他の色	10
ぬいぐるみや人形	さまざまな種類のもの	20
ミニカー		20
積み木		5セット



←将棋など  
室内用ゲーム



ボールなど  
外遊び用の道具→



\*6歳以上の子どもに役立つ図画工作文具例（80名分）

必要なもの	説明	数
筆箱	シンプルなもの	50
鉛筆	良質のもの	250
消しゴム	実用的なもの	50
鉛筆削り	小さくシンプルで良質のもの	50
色鉛筆	12色セット	50
お絵描き帳/ スケッチブック	白い紙で100枚入り、 14-28センチのもの	100
テープ		25
スティックのり		25
粘土	多色のもの	100
はさみ	紙を簡単に切れる、 子どもが使いやすいもの	25
水彩絵の具	12色セット	25セット
水彩絵の具絵筆	3種類のサイズ	25セット
クレヨン	64色のクレヨン	2セット
折り紙	50-100枚入り	20セット



←お絵描き道具、  
折り紙

©World Vision



小麦粉粘土→

©World Vision

『子どもにやさしい空間ガイドブック（第3版）』 p.28

注：備品はいくつかの箱に分類し、分類の名前と中身を書いておく。使用後に数を確認し、誤用を防ぐ。

## **5. CFSチェックリスト：準備編**

### **<感染症対策・安全な環境づくり>**

# CFSチェックリスト：準備編 <感染症対策・安全な環境づくり>

<b>感染症対策・安全な環境づくり</b> ◆感染症対策・安全な環境づくり ★P29, 32 ~35	子どもやスタッフの健康状態を毎日確認するための準備ができている	はい	いいえ	
	感染症予防・発生時対応のための物品が準備されている（使い捨て手袋・マスク・エプロン・拭き取りの布（ペーパータオル、新聞紙等）、塩素系消毒剤、ビニール袋、専用バケツなど）	はい	いいえ	
	手洗い場・トイレに石けん、ペーパータオルか個人用タオルが整備されている	はい	いいえ	
	室内は、3密（密閉、密集、密接）を避けられる人数と広さのバランスになっている	はい	いいえ	
	室内は、十分に換気できる	はい	いいえ	
	スタッフや参加者に感染が出た場合の対応について関係者間で情報共有できている	はい	いいえ	
	子どもに正しい手洗いや咳エチケットを指導するための準備ができている	はい	いいえ	
	嘔吐処理の方法をスタッフ間で確認している	はい	いいえ	
	スタッフは、感染症の研修を受けている	はい	いいえ	
	事業への子どもの参加について保護者から書面で同意を得ているか（保護者の連絡先、子どものアレルギー情報、写真許諾等）	はい	いいえ	
感染症対策：その他特記事項				



事故に備え、以下の連絡先を明確にしておく

- 運営関係者
- 保護者
- 最寄りの医療機関
- 医療支援団体や設置される保健医療調整本部
- 保険会社

## 6. CFSチェックリスト：準備編 ＜スタッフ＞

# CFSを実施する際のスタッフについて

## CFSチェックリスト：準備編 <スタッフ>

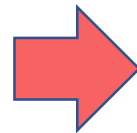
区分	内容	チェック	備考/代替案等
<b>スタッフ</b> ◆ <b>スタッフ</b> ★ <b>P36~41, 52~54</b>	スタッフ・ボランティアは子どもとの適切な接し方について理解し必要な研修を受けているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 	
	ケガや病気などの応急処置に対応するスタッフがいるか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	参加する子どもの年齢・人数・特性に対するおとなの数や男女のバランスは適切か	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	スタッフやボランティアが行動規範に署名しているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 	
	➡スタッフ・ボランティアの行動規範の例：★ <b>付録 VI (P53~55)</b>		
	地元のスタッフやボランティアはいるか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	スタッフ：その他特記事項		

「緊急時子どもの居場所支援事業運営チェックリスト：準備編」

## CFSを実施する際のスタッフについて（子どもとの接し方）

### CFSの目的

- 子どもの日常性の回復
- 子どものレジリエンスを高める



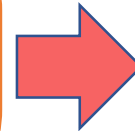
災害後の子どもの心理状態に  
寄り添った関わり方が必要



## CFSを実施する際のスタッフについて（子どもとの接し方）

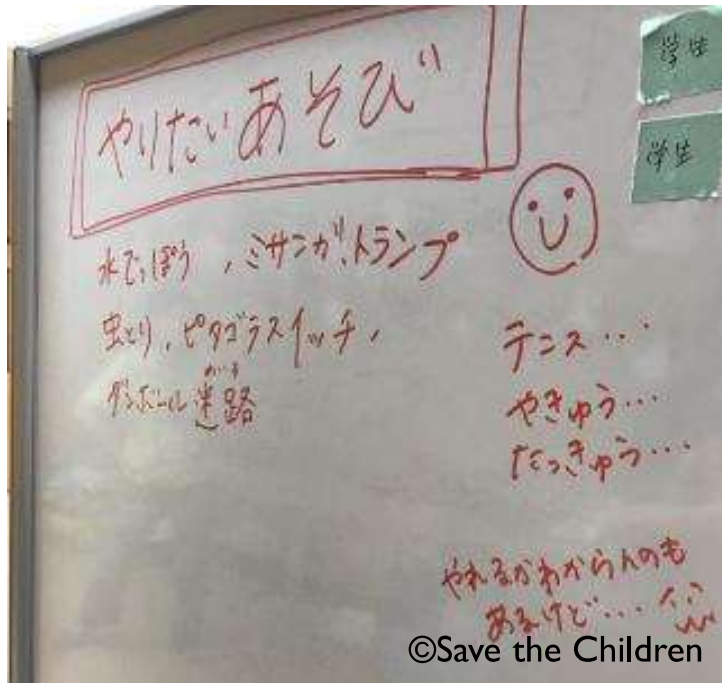
### CFSの基本的な考え

- 子ども中心
- 子どもの自己決定、意思を尊重



### 子どもへの接し方

- 傾聴、受容
- 代弁、伝え返し



## 7. 行動規範（セーフガーディング） について

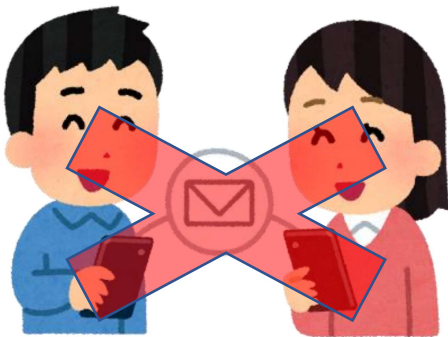


# 行動規範（セーフガーディング）について

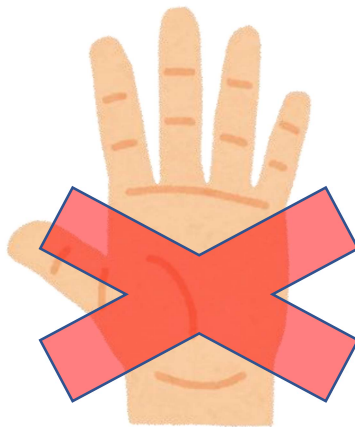
## 【目的】

- 事業活動において子どもにいかなる危害（虐待や搾取など）も及ぼさないよう、努めること
- 活動を通じて子どもの安全への懸念が生じたときは、報告を行い、組織の責任として取り組むこと
- 体罰や暴言、ネグレクトなどあらゆる形態の暴力や不適切行為、不慮の事故なども含めた危険から子どもを守ること

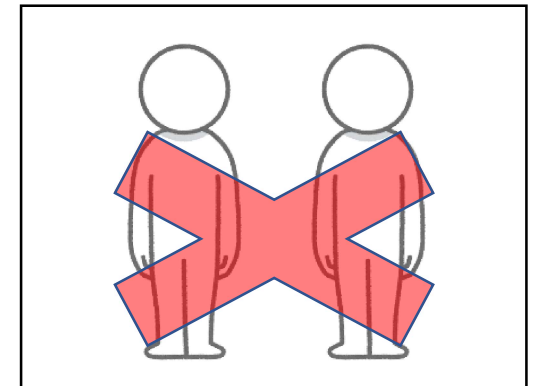
たとえば



個人的な連絡先を交換しない



過剰なスキンシップをしない



閉鎖的な空間で二人きりにならない

# 行動規範（セーフガーディング）のスタッフへの遵守

## 【活動前】

ボランティアを含めた  
スタッフに説明・署名

## 【活動中】

子どもの安全にかかわる  
ことがあれば、随時共有  
し、対応

## 【活動後】

スタッフ間でふりかえり

### 「子どもにやさしい空間」ボランティア行動規範

\*この行動規範における子どもの定義は「児童福祉法」「子どもの権利条約」に則り、0歳～満18歳に達するまで（18歳未満）の男女とする。

活動場所・組織（避難所など）のルールなどあれば、それをあらかじめ理解し、単独行動はできるだけ避け、組織的に活動する。

「子どもにやさしい空間」の活動時以外でも、活動場所・組織（避難所など）においては、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーのある行動と言葉づかいで保護者やその他の方々に接する。

すべての子どもに平等に差別なく接する。年齢、性別、心身の健康状態や、他の状況などにかかわらず、子どもみんなに平等に接する。それぞれのニーズにあわせて対応することは必要であるが、みんなが平等で大切な存在であるということを常に認識して活動する。

子どもと閉鎖的な空間で二人きりになることは避ける。子どもが個別に話をしたいといった場合は、開かれた空間で他の子どもや人々が目に入りながらも、声は他の人に聞こえない状態などで会話できるようにする。

子どものプライバシーを守る。子どもの写真などは無断でとらない。子どもと話したこと、遊びを通じて共有されたできごとなどは、子どものプライバシーを守るため、基本的に匿名で、「子どもにやさしい空間」の活動者の間での話し合い以外では共有しない。

子どもを活動場所（避難所など）より連れ出したり、自宅に連れて帰るという行為はしない。

子どもへの身体的虐待、性的虐待、心理的虐待を行わない。いかなる場合も、体罰、もしくははしつけという名目で子どもの体に接触しない。（虐待についての定義は「児童虐待の防止等に関する法律」などを参考にしてください）

子どもが危険な状態にあると思われる場合（例：虐待を受けていたり、保護が必要だと認識される場合）は、早急に\_\_\_\_\_（責任者連絡先・携帯電話番号など）に報告する。

子どもの話や遊びを見守る中で、見守る側の燃え尽きを防ぐために、必ず活動者の間で話す時間を決めて気持ちを分かち合ったり、無理せずに疲れたときは活動を休む。

もし、上記の行動規範が守られなかった場合は、「子どもにやさしい空間」に関わることを禁止するとともに、法に触れる場合はそれに沿った対処がとられる。

提出用

#### 「子どもにやさしい空間」行動規範承諾書

私は上記の行動規範を読み、理解し、守ることを承諾します。

日付：平成 年 月 日

署名

所属

# 行動規範（セーフガーディング）の子どもへの周知

## 【掲示・配布・説明】

- 行動規範の理解
- 相談しやすい雰囲気づくり  
→何かの時に子ども自ら声を上げる

小学五年生

Save the Children  
セーブ・ザ・チルドレン

セーブ・ザ・チルドレンの活動で安心・安全にすごせるように  
～子どものセーフガーディング～

セーブ・ザ・チルドレンでは、子どもとスタッフが協力して、みんなが楽しく元気にすごせる活動にしたいと思っています。最善な目にあつたりつらい気持ちになることがないよう、みんなの意見を聞いて、一人ひとりを大切にしています。

**スタッフからのやくそく**  
いつも子どもたちが安心・安全に、そして楽しく活動できるように、みんなにやくそくをします。

帰っている子どもも、その友達に話せません。あやしいことはとりのぞきます。	子どもが自分でできることに、よけいなお手つだいはいしません。	一人の子だけ特別あつかいをするなど、えこひいきや差別をしません。
たいたたり、なぐったり、子どもの体を傷つけるようなことはしません。	ひどい言葉をつかったり、バカにしたり、おどろかすようなことはしません。	からだをバタバタさせたり、いやらしいことをしたり、驚かしたりしません。
決められているところで、子どもと2人がだけで遊ぶことはありません。	スタッフは親の役割をまもり、子どもと話し合ったり、やさしく話を聞いたりします。	保護者の人にならなくても、子どもとふたりで、活動の場をわけておしゃべりや遊ばせません。

相談するときには、いつでもみんなに話せます。勝手にとつたり、使ったりはしません。

困ったことがあっても、スタッフはいつでも相談にのめます。みんなの気持ちを大切にします。

小学五年生

みんなとはなれるとき  
誰かの場所に行くときや、集まるとき、スタッフが2人きりになるところ、ほかの人に話しかけてはなりません。

写真について  
学校の写真を撮るときは、スタッフの許可を必ずとってください。自分や友だちの顔が写っていないようにすることも大切です。

自分や友だちのこと  
名前や学年、誕生日、電話番号、メールアドレスなどは大事な個人情報は、自分だけのものにしてください。友だちの個人情報も大切にしてください。

スタッフのこと  
LINEやフェイスブックでの交流は、活動の場とは関係なく、スタッフと連絡をとりたいようにしてください。

みんなに協力してほしい4つのこと  
子どもたちもできることに、関わってほしいことがあります。みんなが安心・安全に楽しくすごせるための、おねがいです。

こんなときはスタッフに教えてね

ケガをした。	体のぐあいがわるくなった。	活動を続けるのがつらくなった。	おとなの人やほかの子からいやなことがされた。	スタッフが「スタッフからのやくそく」を守らなかった。
--------	---------------	-----------------	------------------------	----------------------------

**子ども相談係**  
セーブ・ザ・チルドレンのスタッフは、いつも子どもたちの安全を大切にしています。もし、何かの困りごとはあれば、いつでも一人で話して大丈夫です。子どもたちも安心して相談できるような環境を整えています。困ったことがあれば、いつでも話してください。

保護者のみなさまへ  
この冊子は、スタッフが子どもと連絡に使うことができません。平日のみ読み取り専用です。お返事はできません。ご活用ください。

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 〒101-0047 東京都千代田区西船場1-6-4 4階 404号  
03-6459-6666 (平日10:00-17:00) 海外担当: 03-6459-6666 (平日10:00-17:00) 子どもセーフガーディング部

# 行動規範（セーフガーディング）の保護者への理解

感染症対策・ 安全な 環境づくり	事業への子どもの参加について保護者から書面で同意を得ているか（保護者の連絡先、子どものアレルギー情報、写真許諾等）	はい
------------------------	---	----

## 【保護者への参加同意書】

- 事業への参加や活動の理解
- 子どもに何かあった時の連絡先
- 子どもの特性の把握

「子どもにやさしい空間\*で遊ぼう！」（\*個別名称がある場合には個別名称を記入）

参加されるみなさまへ

私たち〇〇〇(団体名)は、今回の災害を受けて、子どもたちが少しでも遊んだりくつろいだりできる場所である「子どもにやさしい空間\*」を避難所や地域で運営しています。子どもたちにとっては、どんな環境にあっても、「遊び」の場は大切です。「遊び」は子どもたちにとって重要な成長を支えます。避難所などでなかなか思いきり声を出したり、運動をできない状況が続いていると思います。「子どもにやさしい空間\*」では、ボランティアスタッフが子どもたちを見守りながら遊びの機会を提供しています。

私たちの思いに賛同し、お子さまが「子どもにやさしい空間\*」で遊ぶことに同意していただける保護者の方は、下記の参加申込書（同意書）に必要な事項を記入のうえ、スタッフにお渡しください。個人情報、厳重に管理し、「子どもにやさしい空間\*」の運営のみに使用し、他には使用いたしません。

(団体名)

---

✂ 切り取り

参加申込書（同意書） 平成 年 月 日

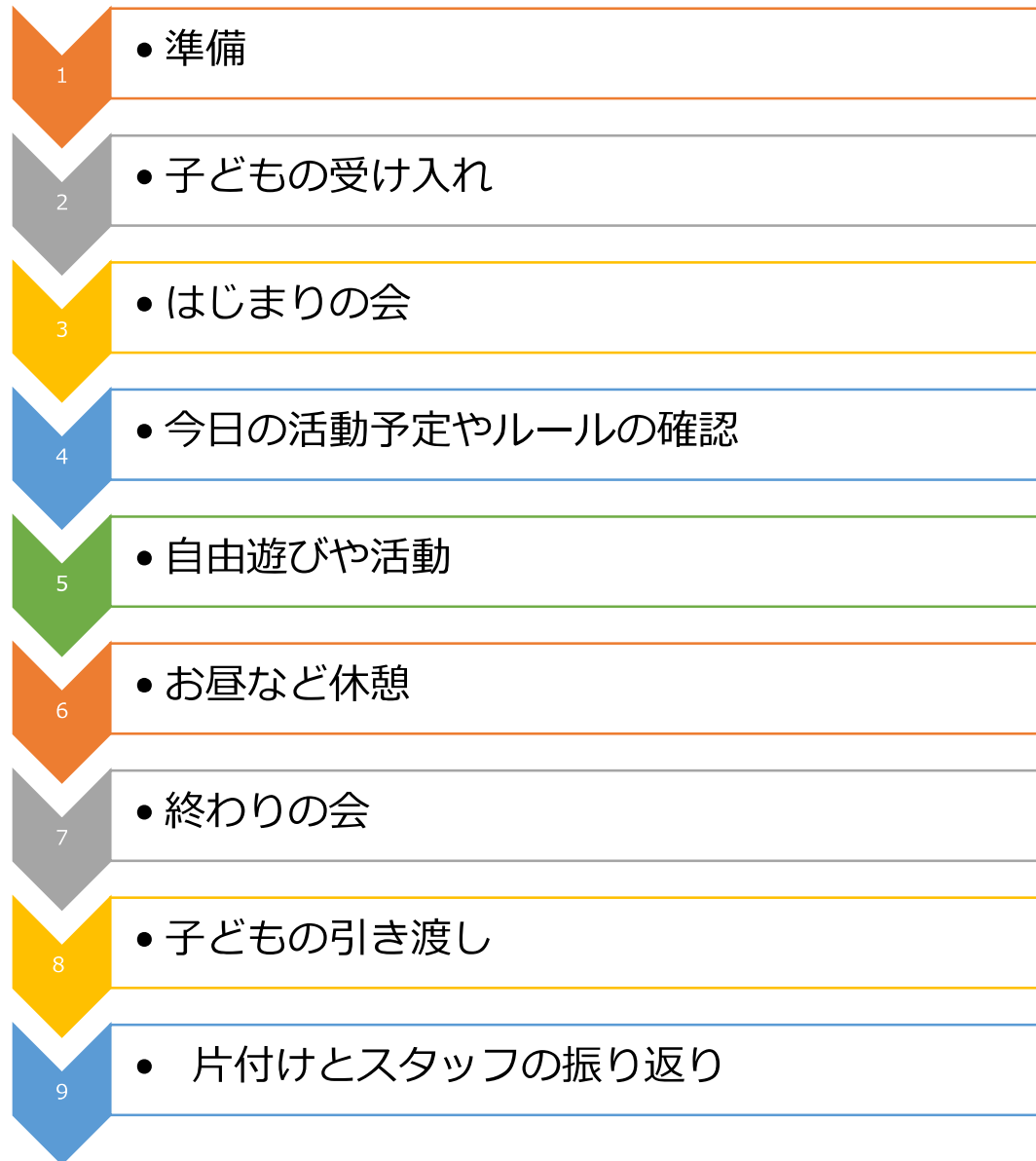
〇〇〇の運営する「子どもにやさしい空間\*」の趣旨に賛同し、下記氏名の子どもが「子どもにやさしい空間\*」で遊ぶことに同意します。

保護者氏名（ふりがな）	緊急連絡先（電話・携帯）
子ども氏名（ふりがな）  （男・女）	年齢  歳
幼稚園・保育園・学校名	
住所または避難所などの詳細	
お子さんの気になること、日頃気をつけていること（アレルギー、服薬など）があれば、お書きください	

# 「子どもにやさしい空間 (Child Friendly Spaces :CFS)」 設置・運営研修 ～実施編～



# 1. 1日の流れ





# 1. 準備

- 施設管理者や避難所運営者などに挨拶し、本日の活動予定を共有
- スタッフ、ボランティアさんと打ち合わせ
- 本日の活動の流れの確認
- 子どもに関する申し送り（該当する場合）
- スタッフの健康チェック
- 特記事項



# 1.準備(続き)

- 清掃
- 遊びのコーナーづくり
- 救急キット、衛生用品、飲料水などの準備補充



## 2. 子どもたちの受け入れ

- 出席の確認
- 健康チェック
- 初めてCFSに来る子どもからの同意書を受け取る



### 3. はじまりの会

- 人数確認
- 子どもたちと今日の活動について話し合う
- 子どもたちとCFSのルールを確認
- そのほか、連絡事項を伝える

## 4. 自由遊びや活動

- 危険な箇所の確認
- スタッフの人数や配置の確認
- 備品や水分補給の飲み物などが準備・補充されているか確認
- トイレや食事など途中でその場を離れる子どもに必要なに応じて同行、子どもの所在の確認

## 5. お昼などの休憩

- 子どもたちの休憩、お昼食べる時間を十分に取る。特に気温が高い日は、こまめに休憩と水分補給を行う。
- CFSで食べ物を提供する場合、子どものアレルギーなど安全に注意
- スタッフの休憩時間も十分に確保し、休憩できるようにする。交代スタッフがいる場合は引き継ぎを丁寧に。



## 6. 終わりの会

- CFS終了前に子どもたちとお片付け
- みんなで集合して、活動の振り返り
- 最後の参加の子どもやスタッフへ挨拶
- 翌日の予定を伝える

A woman with dark hair tied back, wearing a white shirt, is seen from the side, looking towards a white bus. The bus has a sign that says '岡山県' (Okayama Prefecture) and '子ども送迎バス' (Children's Shuttle Bus). The bus is parked in front of a multi-story brick building with many windows. The scene is outdoors with some greenery visible.

## 7. 子どもの引き渡し

- 子どもを迎えに来る保護者は必ず確認
- 子どものCFSでの様子を伝える
- 保護者の迎えを待っている子どもがいる場合は対応

## 8. 片付けと スタッフの振り返り

- 備品やおもちゃを消毒
- CFSを清掃
- 不足する消耗品や修繕が必要な備品がないか確認
- スタッフ、ボランティアと、その日の振り返りをする
- 翌日の予定を確認(毎日同じ時間に開所する)
- 避難所運営者に必要事項を報告





# 1日の活動内容の例

時間	活動内容
9:00~	受付
9:30~ 10:30~	1) 乳幼児と親の自由な時間 2) 小学生の自由な遊び（中高生ボランティア）
12:00~	お昼休憩／スタッフは打ち合わせ
14:00~	3) 小・中学生の自由遊び（高校生ボランティア）
15:00~	4) 小・中学生の静かな時間
16:00~18:00	5) 高校生片付け、高校生の学習時間、おしゃべりタイム
18:00~19:00	スタッフ振り返り、翌日のための打ち合わせ

## 2. 開始から終了／引き継ぎまでの流れ

1

- CFS開設時

2

- CFS開設から数週間後以降

3

- CFSの終了／他団体への引き継ぎ

1

## • CFS開設時

- CFSを知らない保護者や子どもへの周知
- 関係者との密な連絡（実施場所（避難所や公民館など）、子ども支援調整会議への定期的な報告）
- CFSを利用する子どもたちに関する細かい気づきをスタッフ間で共有
- 新しく入るボランティアにはボランティア登録／研修を行う

## • CFS開設から数週間後以降

- 子どもや保護者にCFSへの要望や支援ニーズに関するアンケートなどを実施
- CFS実施場所（避難所や公民館など）、子ども支援調整会議、行政の担当部署などへの活動報告
  - \* 利用者アンケートの結果も必要に応じて報告
- CFSを利用する子どもたちに関する気づきや対応についてスタッフ間で共有、CFSを利用していないがニーズのある子どもたちにどのようにCFSを使ってもらおうか協議

## • CFSの終了／他団体への引き継ぎ

- CFSを利用する子どもや保護者に、今後のCFSの方向性（活動の終了／他団体への引き継ぎなど）について説明
- 備品の撤収／引き継ぎ
- 他団体（地元団体）に引き継ぐ場合は、丁寧に説明。  
ボランティアや利用者の個人情報管理について話し合っておく
- CFS実施場所、行政の担当部署、子ども支援調整会議に  
終了／引き継ぎについて報告

### 3. CFS実施にあたっての留意点

\* 「CFSチェックリスト実施編」を参考にしてください

# CFSの活動内容

## CFSチェックリスト：実施編 <活動内容>

### 活動内容

★ P22~28

参加する子どもの年齢や発達段階に合った活動を行っているか (室内・外遊び、静と動、一人遊びと交流遊びなど)	はい	いいえ
参加する子どもは活動や遊びを自分で選択できる自由があるか/参加しない自由も保障されているか	はい	いいえ
適切な時間配分を行っているか	はい	いいえ
水分補給など休憩時間を確保しているか	はい	いいえ
活動内容：その他特記事項		

子どもの性別や年齢などを考慮し、できるだけ多様なニーズに応えられるように。

活動内容の★はガイドラインのページ数を示しています。





# CFSでの活動内容（例）

## 発達促進的な遊び

- 自由遊び（図画工作、ごっこ遊びなど）
- 構造的な遊び（音楽、劇、スポーツ、ゲームなど）

## 教育

- 自習
- 学習支援

## 健康と栄養

- 健康・発達面のスクリーニング
- 栄養・衛生教育
- 応急処置

## 心理社会的支援

- 専門家による支援活動
- ピア・サポート
- 親のカウンセリング
- プレイセラピー

## 地域の活動

- 世代をこえた交流
- 家族が参加できる活動
- 子ども会

## ライフスキル

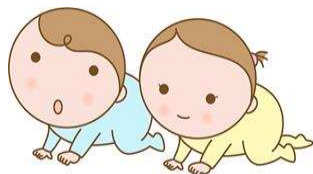
- 問題解決能力や自発性の向上
- 暴力・虐待への対応
- 衛生に対する知識

『子どもにやさしい空間ガイドブック（第3版）』 p. 22

**専門家でなくても！発達段階に応じて！**

# 発達段階に応じた活動の工夫

## 乳幼児



- ①保護者が安心できる場。
- ②子どもの様々な感覚に働きかける遊び／おもちゃで活動

## 小学生



- ①子ども同士の関わり
- ②日常的／なじみのある活動
- ③多様な遊びや活動による気持ちの表現や交流（ごっこ遊び、  
図画工作、歌、踊りなど）
- ④大人の手伝いや活動への参加

## 中高生 青少年



- ①活動計画への参加
- ②年少者のサポートとして参加
- ③自習／学習支援
- ④ライフスキルのワークショップ
- ⑤家族内での責任や役割を考慮した工夫

# 利用時間・ルールなどを子どもたちや保護者と共有

CFSチェックリスト：実施編 <利用時間・ルール、運営方針>

利用時間・  
ルール、  
運営方針

実施場所の利用時間や利用ルールについて参加する子どもと保護者の意見を取り入れながら決め、文書等で説明したか

はい

実施場所の利用時間や利用ルールが子どもに分かりやすい形で、わかりやすい場所に掲示され、守られているか/必要に応じ見直されているか

はい

利用時間・ルール、運営方針：その他特記事項

ルールを設けるだけでなく、子どもの意見を取り入れたり、ルールが守られているか確認することも重要です。

★P24~25



# 保護者の同意書、参加者名簿、個人情報の保護と管理

CFSチェックリスト：実施編 <同意書、個人情報の保護と管理>

同意書、  
個人情報の  
保護と管理

★ P50~51

事業への子どもの参加について保護者から書面で同意を得ているか／保護者の連絡先や送迎時間、アレルギー情報などの確認ができており、緊急時の連絡体制が取れているか	はい	いい
➡保護者の同意書の例：★付録 III (P50)		
参加する子どもや保護者の個人情報の取得は必要最低限にとどめられ、記録媒体(名簿等)が適切に管理されているか	はい	いい
➡参加者名簿、連絡先の例：★付録 IV (P51)		
写真撮影の可否について子ども本人と保護者の同意を得ているか(同意なく撮影をしない) ※写真撮影の可否についても同意書で確認しておくが良い	はい	いい
外部者の訪問や取材等について子どもの保護に配慮したルールが整備され、スタッフ間に共有されているか	はい	いい
同意書、個人情報の保護と管理：その他特記事項		

子どものアレルギー情報などはスタッフ間で共有しましょう。

外部からの訪問や取材を管理するなど、子どもの個人情報の取り扱いに注意しましょう。



## (例) 保護者の同意書

「子どもにやさしい空間\*で遊ぼう！」 (\* 個別名称がある場合には個別名称を記入)

参加されるみなさまへ

私たち〇〇〇(団体名)は、今回の災害を受けて、子どもたちが少しでも遊んだりくつろいだりできる場所である「子どもにやさしい空間\*」を避難所や地域で運営しています。子どもたちにとっては、どんな環境にあっても、「遊び」の場は大切です。「遊び」は子どもたちにとって重要な成長を支えます。避難所などでなかなか思いきり声を出したり、運動をできない状況が続いていると思います。「子どもにやさしい空間\*」では、ボランティアスタッフが子どもたちを見守りながら遊びの機会を提供しています。

私たちの思いに賛同し、お子さまが「子どもにやさしい空間\*」で遊ぶことに同意していただける保護者の方は、下記の参加申込書(同意書)に必要な事項を記入のうえ、スタッフにお渡しください。個人情報、厳重に管理し、「子どもにやさしい空間\*」の運営のみに使用し、他には使用いたしません。

(団体名)

✂ 切り取り

参加申込書(同意書) 平成 年 月 日

〇〇〇の運営する「子どもにやさしい空間\*」の趣旨に賛同し、下記氏名の子どもが「子どもにやさしい空間\*」で遊ぶことに同意します。

保護者氏名 (ふりがな)	緊急連絡先 (電話・携帯)	
子ども氏名 (ふりがな)	年齢	幼稚園・保育園・学校名
(男・女) 歳		
住所または避難所などの詳細		
お子さんの気になること、日頃気をつけていること(アレルギー、服薬など)があれば、お書きください		

『子どもにやさしい空間ガイドブック(第3版)』 p.50

## (例) 参加者名簿・連絡先

月 日( ) ここは \_\_\_\_\_ (\*子どもにやさしい空間の名前) です。

いっしょにあそびましょう。

名前	年齢	保護者氏名	保護者連絡先	今日の体調	来た時間	帰った時間
	歳			😊 😞		
	歳			😊 😞		
	歳			😊 😞		
	歳			😊 😞		
	歳			😊 😞		
	歳			😊 😞		
	歳			😊 😞		
	歳			😊 😞		

『子どもにやさしい空間ガイドブック(第3版)』 p.51

# モニタリングと質の確保

## CFSチェックリスト：実施編 <モニタリング、質の担保>

### モニタリング、 質の担保

★P42～45,  
55～58

事業の運営状況(開始・終了時間、従事したスタッフ、主な活動、訪問者、地域との連携、その他特記事項等)について日々の確認・記録を行っているか

はい

いいえ

➡モニタリング評価用紙(スタッフ用)の例：★付録 VII (P55～56)

参加した子ども(各人の出欠/少なくとも男女別の参加者数、その他特記事項)や家族(送迎時や連絡帳でのやりとり等)について日々の確認・記録を行っているか

はい

いいえ

日々の確認・記録をもとに、スタッフ間で定期的な振返りを行っているか

はい

いいえ

参加している子どもや家族、連携している地域行政や支援団体等から事業に対する意見(苦情も含め)を聞いているか(聞き取り、アンケート等)

はい

いいえ

➡モニタリング評価用紙(保護者用アンケート)の例：★付録 VIII (P57)

子どもや保護者のニーズを確認しているか

はい

いいえ

上記の振返りや意見等を事業の改善に活かしているか

はい

いいえ

モニタリング：その他特記事項

CFS内に意見箱を設置したり、定期的に利用者から聞き取りを行ったりしてCFS運営に活かしましょう。



## (例) モニタリング評価用紙 (スタッフ用)

### 付録Ⅶ モニタリング評価用紙 (スタッフ用)

「子どもにやさしい空間」モニタリング評価用紙 (スタッフ用)

- 評価日：\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日(\_\_\_\_\_)
- 評価者：\_\_\_\_\_  スタッフ  ボランティア
- 場 所：\_\_\_\_\_  屋内  屋外
- 運 営：\_\_\_\_\_
- 時間帯：平日\_\_\_\_\_ 土日祝\_\_\_\_\_
- 参加した延べ人数 (\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日 - \_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日)

年齢	女の子	男の子	合計	保護者
乳幼児				
小学生				
中学生				
高校生以上				
保護者				
地域住民				

#### ● スタッフの情報

役別	人数	改善点など
代表(責任者)		
スタッフ		
ボランティア		
その他		

『子どもにやさしい空間ガイドブック (第3版)』 p.55-56

## (例) モニタリング評価用紙 (保護者用)

### 付録Ⅷ モニタリング評価用紙 (保護者用アンケート)

「子どもにやさしい空間」モニタリング評価用紙 (保護者用アンケート)

- 記入日：\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日(\_\_\_\_\_)
- 記入者：\_\_\_\_\_  母  父  その他(\_\_\_\_\_)
- お子さまについて

	年齢	性別	就園・就学	利用の頻度・曜日・時間帯
1		男・女	有・無	
2		男・女	有・無	
3		男・女	有・無	
4		男・女	有・無	

※4名以上の場合は空欄に書いてください

- お子さまの最近の様子について気になることはありますか  
(\_\_\_\_\_)
- お子さまは、ここで、どのように過ごしていますか  
(\_\_\_\_\_)
- どのような活動に参加しましたか  
(\_\_\_\_\_)
- \_\_\_\_\_に参加して、お子さまに変化はありましたか  
 ほとんどない  少しある  ややある  とてもある  
「ある」と答えた方は具体的に  
(\_\_\_\_\_)

『子どもにやさしい空間ガイドブック (第3版)』 p.57-58

# 支援会議への出席、行政、避難所運営者などとの連携

CFSチェックリスト：実施編 <地域行政、他団体などとの連携>

<b>地域行政、 他団体などとの 連携</b>  <b>● 地域行政、 他団体などとの 連携</b>  <b>★ P15~ 19,36</b>	事業の進捗や状況・課題等について、連携先の地域行政や支援団体、避難所運営者などと情報共有や話し合いができて いるか	はい	いいえ
	事業の進捗や状況を踏まえて、事業開始時に話し合った出口 戦略や引継ぎに向けた準備を進めているか	はい	いいえ
	人的・物品リソースなどの協力体制が維持できているか →「はい」の場合、具体的に協力を得ている内容を記載	はい	いいえ
	地域行政,他団体などとの連携：その他特記事項		

定期的に官民横断的な支援調整委員会が開催されることが多く見られます。



©Save the Children



©Plan International



## 4. その他役に立つ学びと参考資料

# その他役に立つ学び



## 研修項目の例

- 災害が子どもや家族にもたらす影響
- 子どものさまざまな反応や行動への対応の仕方
- 喪失とグリーフ（悲嘆）に寄り添う方法
- 子どもの遊びへの寄り添い方や遊びを促す方法
- 子ども参加型の学習方法
- 親とのかかわり方
- 子どもの権利や保護に関する知識
- 子どもと接するときの行動規範
- 保健・栄養・衛生に関する知識と伝え方
- 専門的な助けが必要な子どもたちの特定の仕方
- 専門的な助けが必要な子どもたちを専門家につなげる方法
- 活動報告と問題が起こったときの報告の仕方

## その他参考資料について

### 【国際的なガイドライン】

災害時に支援活動をする上での国際的な最低基準を紹介



スフィアハンドブック

<https://www.nagoya2.jrc.or.jp/content/uploads/2021/08/Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf>



人道行動における子どもの保護の最低基準

<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/cpms2.pdf>



子どもと若者のためのセーフガーディング最低基準のためのガイド

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100067443.pdf>

### 【子どもの遊び】

静動の様々な遊びの他、遊びによる子どもへのケアを紹介

財団法人コドモネクスト

<https://kodomo-next.jp/articles/5679bb283984>

遊びを通した子どもの心のケア

(日本ユニセフ協会・日本プレイセラピー協会)

[https://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/children\\_support/](https://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/children_support/)

### 【こころのケア】

災害の影響を受けた子どもの状況や対応について紹介



子どものための心理的応急処置

<https://www.savechildren.or.jp/lp/pfa/>

国立精神神経医療研究センター

(災害時こころの情報支援センター)

<https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/general/index.html>

一般社団法人日本心理臨床学会

<https://www.ajcp.info/heart311/>